

平成28年度 武蔵野市まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるKPI達成状況と評価

基本目標 1		子育て世代を地域社会全体で支え合い、妊娠、出産、子育ての希望が叶うまちの実現			
重要業績評価指数 (KPI)		当初値 (H26)	前回数 (H27)	現状値 (H28)	目標値 (H31)
<b>(1) 子ども自身の育ちと子育て家庭への総合的支援</b>					
幼稚園・保育施設の定員数		4,451人	4,620人	4,871人	5,160人
<p>取組みに対する評価: 地域社会全体で子育て世代を総合的に支えるという目標達成に向け、子育て世帯向けの各種講座や庁内連携会議の開催等、各種取組みを実施した。待機児童解消の取組みは、認可保育所の開設予定が1園実現できなかったものの、地域型保育事業や認証保育所、グループ保育施設開設等により着実に進展しており、今後も幼稚園・保育施設定員数確保に向けた取組みを進めていく。幼児教育に関しては、預かり保育拡充や教員研修費等の補助を充実させた。今後は引き続き幼保連携施策や幼保合同の研修会等を検討していく。</p>					
<b>(2) 地域社会全体の連携による子ども・子育て支援の充実</b>					
collabono(こらぼの)コミセン親子ひろばの実施か所数		0か所	4か所	7か所	6か所
<p>取組みに対する評価: 共助による子育てひろば事業は2年目を迎え、目標を超える7か所で実施し、子育てに関連した人や団体がつながるための仕組みとして定着しつつある。従前からの事業も含めて、効果・課題等を把握しながら取組みを継続するとともに、共助の仕組みを活かした子育て援助活動であるファミリー・サポート・センター事業を新たに実施していく。子育てに関する情報を入手・共有できる環境整備については、昨年度までの検討を踏まえ、29年度には子育て家庭に情報を発信するウェブサイトの開設を予定しており、具体化を進めている。</p>					
<b>(3) 次代を担う力をはぐむ学校教育／青少年の成長・自立への支援</b>					
「学校に行くのは楽しい」と思う児童・生徒の割合		87.9%	87.6%	86.6%	92.9%
<p>取組みに対する評価: 知徳体の調和がとれた教育を推進するために、ICTの整備、いじめ防止に向けた道徳教育の実施、体育指導の充実など、各種取組みを充実させた。放課後施策の充実については、あそべえ事業と学童クラブ事業の子ども協会委託に向けて必要な準備を進めた。中高生リーダー制度は参加者が増え活性化している。若者サポート事業もなお一定のニーズがあるため、相談機能を強化し充実を図っていく。29年度からはあそべえ事業と学童クラブ事業を地域子ども館事業と位置づけ、館長の配置及び学童クラブ指導員の体制強化による子どもへの継続的な関わり、スキルの蓄積により、ひとりひとりへのきめこまやかな育成体制を確立していく。</p>					
基本目標 2		すべての市民が、いつまでもいきいきと健康に、住み慣れた地域で生活を継続できるまちの実現			
重要業績評価指数 (KPI)		当初値 (H26)	前回数 (H27)	現状値 (H28)	目標値 (H31)
<b>(1) 支え合いの気持ちをつむぐまちづくりの推進</b>					
テンミリオンハウス年間利用者数		35,062人	36,270人	38,553人	37,800人
<p>取組みに対する評価: 高齢者の地域・福祉活動への参加を促進するシニア支え合いポイント制度を試行実施し、202名の参加、177名のサポーター登録があった。テンミリオンハウスは地域社協の地区ごとの設置を目指し、8か所目の「ふらっと・きたまち」を開設した。その他、障害者団体同士の横の連携を図る情報交換会の開催等、高齢者や障害者が地域の支え合いの担い手となり、自立を促進する取組みについて具体的な進展があった。引き続き、地域の支え合いの環境・仕組みづくりの取組みを充実・発展させていく。</p>					
<b>(2) 誰もが地域で安心して暮らしていける仕組みづくりの推進</b>					
健康増進事業への参加者数		8,037人	8,665人	9,721人	8,400人
<p>取組みに対する評価: 定期巡回・随時対応型訪問介護事業の拡大や、地域の見守り・相談機能ネットワークの強化により、地域で安心して暮らすための環境がさらに充実した。健康増進と介護予防、食への意識向上、就労支援の充実に関する各種事業を継続したほか、「介護と看護のお仕事フェアin吉祥寺」の開催やシルバー人材センターでの派遣事業開始等の新たな取組みもあり、各施策の改善・進展を図ることができた。今後もライフステージに応じた健康づくりを進め、保健・医療・介護・福祉等様々な分野で誰もが安心して暮らしていける仕組みづくりに努めていく。</p>					

**基本目標 3**

**個性輝くまちづくりを推進し、未来に希望が持てる持続可能なまちの実現**

重要業績評価指数 (KPI)	当初値 (H26)	前回は (H27)	現状値 (H28)	目標値 (H31)
----------------	-----------	-----------	-----------	-----------

(1) 地域社会と市民活動の活性化

コミュニティセンターの延べ利用人数	909,601人	884,653人	890,281人	950,000人
-------------------	----------	----------	----------	----------

取組みに対する評価: コミュニティセンターの利用促進と市民活動団体相互のネットワーク形成に向けた様々な取組みを継続・具体化している。コミセンについては、「地域フォーラム」は、市との共催テーマも含め開催回数が増加した。延べ利用人数は、緑町及び関前コミセンのエレベーター設置工事による休館の影響により当初値を下回っている。市民活動支援については、「市民活動はじめて月間」による市民活動関連事業の一体的な広報を行った他、市民活動促進基本計画を改定し、市民活動促進に向けた今後の方向性の明確化を図った。今後もコミュニティの活性化に向け、コミュニティ協議会及び市民活動団体の効果的な支援に取り組んでいく。

(2) 市民文化の醸成／市民の多様な学びやスポーツ活動への支援

武蔵野地域自由大学の正規科目履修者数	317人	312人	301人	330人
--------------------	------	------	------	------

取組みに対する評価: 市民が文化芸術に親しむきっかけ作りや様々な文化活動への支援を行い、生涯学習機会の提供やスポーツ振興に向けた取組みについても積極的に実施した。また文化振興基本方針の策定に向けた調査研究を進めた。スポーツ振興は、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けた「Sports For All」など各種新規イベントの開催、市立小学校の授業支援等の具体的な進展があった。引き続き本市の魅力や都市文化を発信するとともに、文化・スポーツ活動を支援する地域の担い手の育成に取り組んでいく。

(3) 地域の特性を活かした産業の振興

従業者数(事業所単位)	87,022人		87,949人	89,600人
-------------	---------	--	---------	---------

取組みに対する評価: 創業支援事業では、事業者への補助を行うことにより新たに創業支援施設を4カ所開設し、今後の施設運営支援のあり方等の検討を進めている。また市民の日常生活を支える身近な産業の振興を促進するため、市内経済を支える中小企業への支援を継続した。観光振興については、これまでの観光推進事業を検証し、今後実施すべき施策や事業について整理するため、第二期観光推進計画を策定した。今後この計画に基づき、東京オリンピック・パラリンピックを見据えて必要な課題対応・事業推進を図っていく。

(4) 都市・国際交流の推進

武蔵野市国際交流協会による 在住外国人支援事業への参加者数	1,880人	1,909人	2,138人	2,000人
----------------------------------	--------	--------	--------	--------

取組みに対する評価: 国内外の友好都市との交流事業は、市民の相互理解を深め、都市・地方の共存、国際社会の平和・友好を目的としており、災害時の相互支援にも繋がっている。28年度も市民レベルの交流を広げる事業を継続して実施した。市内の在住外国人支援については、多国籍化や問題の多様化等の課題があり、国際交流協会(MIA)の在住外国人支援事業は重要性が増している。日本語学習支援や「留学生」むさしのファミリープログラム等の多彩な事業を実施したほか、三鷹市・小金井市・西東京市と連携し、四市の関係団体を交えた意見交換会を実施した。引き続き近隣市と連携した広域的な取組みの検討を進め、東京オリンピック・パラリンピック開催等を見据えて、より効果的な展開を検討していく。

(5) 災害への備えの拡充

防災訓練の参加者数	5,820人	6,472人	5,484人	6,400人
-----------	--------	--------	--------	--------

取組みに対する評価: 防災態勢の強化については、熊本地震を踏まえた総合防災訓練のプログラムの見直しや、帰宅困難者対策における災害対応マニュアルの策定と、その効果検証に取り組んだ。また、新たに亜細亜大学等の7つの団体と連携協定を締結した。防災訓練の参加者数減少は、防災フェスタ当日が雨天であったことが主な理由である。引き続き平時から諸団体と連携を深め、防災態勢の実効性を高める取組みを進めていく。耐震化の推進については、経済的支援・普及啓発の各々の観点から各種事業を実施している。各取組みの効果を検証しながら、29年度から32年度にかけて各種助成・支援制度を拡充するとともに、さらなる普及啓発活動を行っていく。

(6) 「緑」を基軸としたまちづくりの推進

公園・緑地の面積	637,757㎡	641,100㎡	642,859㎡	650,000㎡
----------	----------	----------	----------	----------

取組みに対する評価: 「緑」を基軸としたまちづくりを市民活動との連携を深めながら推進していくことが求められている。緑の保全サポート制度(仮称)緑の街並み高め隊を実施し、アンケート調査を行い課題を整理したほか、漫画形式の啓発冊子を作成し、29年度からの小学校向けの啓発や井の頭恩賜公園開園100周年記念事業への対応を準備した。また、武蔵境の高架下の公園新設等により公園・緑地を拡充した。29年度にはグリーンパーク緑地の隣接地約1,300㎡を取得し公園・緑地を拡充する予定であり、今後も市民活動との連携を図りながら、緑の重要性を発信し、効果的に事業を展開していく。

(7) 公共施設ネットワークと都市基盤の再整備／社会の変化に対応していく行政運営

事務事業見直し・補助金見直しによる経費削減額	1,243,539千円	371,406千円	843,040千円 (H27・28累計)	1,280,000千円 (H27～31累計)
------------------------	-------------	-----------	-------------------------	---------------------------

取組みに対する評価: 将来にわたり健全な財政運営を維持し、安全で時代のニーズに合った公共施設等を整備・提供することを目的とした公共施設等総合管理計画を策定した。また、平成29年度から32年度を対象期間とする第五次行政財政改革推進基本方針及び行政財政改革アクションプランを取りまとめた。今後も、持続可能な市政運営のため、総合的かつ計画的な公共施設等のマネジメントと行政財政運営に取り組んでいく。